
証券コード6859

エスペック株式会社

**2018年度(2019年3月期)
決算説明会**

2019年5月23日

www.espec.co.jp

目次

会社概要

2018年度 決算概要

2018年度 セグメント別分析

2019年度 通期計画

2019年度 取り組み

参考資料

会社概要

環境試験器の世界トップメーカー

会社名	エスペック 株式会社
本社住所	大阪市 北区 天神橋 3-5-6
代表者	石田 雅昭 (いしだ まさあき)
創業年月日	1947年(昭和22年)7月25日
設立年月日	1954年(昭和29年)1月13日
資本金	6,895百万円
発行済株式総数	23,781,394株
従業員数	1,520名(連結)
事業内容	環境試験器、エナジーデバイス装置、半導体関連装置、 植物工場の製造・販売、アフターサービス、受託試験など



本社

環境試験器シェア 世界30%以上 国内60%以上

(2019年3月31日現在)

グローバルネットワーク

連結子会社 10社
(海外7社、国内3社)

海外ネットワーク
45カ国33社

国内拠点 25カ所
国内代理店 46社

欧州

△ESPEC EUROPE GmbH
△ESPEC IKLIM KABINLERI
SATIS VE MUHENDISLIK
LIMITED SIRKETI

日本

エスペック(株)
●エスペックテストシステム(株)
●エスペック九州(株)
●エスペックミック(株)
△(株)ミックファーム大口

アジア

●上海愛斯佩克環境設備有限公司
●愛斯佩克環境儀器(上海)有限公司
●愛斯佩克試験儀器(広東)有限公司
●愛斯佩克測試科技(上海)有限公司
●ESPEC(CHINA)LIMITED
●ESPEC KOREA CORP.
△ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.
△ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO., LTD.

米国

●ESPEC NORTH AMERICA, INC.

●印…連結会社
△印…非連結子会社

事業概要(各事業の市場/用途)

		主要製品	市場	用途	売上構成比 2018年度	
装置事業	環境試験器	<ul style="list-style-type: none"> ・恒温恒湿器 ・冷熱衝撃装置 ・小型環境試験器 ・ハストチャンバー 	<ul style="list-style-type: none"> ・恒温恒湿室 ・複合環境試験機 ・HALT試験装置 ・FPD装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 ・医薬品、食品等 ・LCD、有機EL 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 ・生産、検査 	
	エネルギーデバイス装置	<ul style="list-style-type: none"> ・二次電池充放電サイクル評価装置 ・二次電池安全性評価装置 ・燃料電池評価装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代自動車 ・二次電池 ・燃料電池 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 ・安全性評価 ・生産 		
	半導体関連装置	<ul style="list-style-type: none"> ・バーンイン装置 ・半導体評価装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・計測システム 	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体 ・自動車 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産、検査 ・開発、評価 	
サービス事業	アフターサービスエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器周辺工事 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 	—	
	受託試験レンタル	<ul style="list-style-type: none"> ・受託試験 ・リセール 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器レンタル ・校正 		<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 	
その他事業	環境保全	森づくり、水辺づくり、都市緑化				
	植物育成装置	植物工場、研究用育苗装置など				

【装置事業】TOPICS

(2018年12月)

ベトナムに「ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO,LTD」を設立



会社名 : ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO,LTD
所在地 : Room 8, 9 th Floor, VIT Tower, 519 Kim Ma Street, Ngoc Khanh ward, Ba Dinh District, Hanoi, Vietnam

設立 : 2018年12月

稼働 : 2019年1月

事業内容 : 製品メンテナンスや予防保全などの
テクニカルサポート



会社名 : ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.
所在地 : 700/860, Amata City Chonburi Industrial Estate (Phase8)
Moo.5, Tambol Nongkakha, Amphur Panthong, Chonburi
20160, Thailand

設立 : 2015年3月

事業内容 : 製品メンテナンスや予防保全などの
テクニカルサポート、受託試験サービス



【装置事業】TOPICS

(2018年11月)

中国市場向け 二次電池評価装置の発売

- 車載用二次電池充放電テスター
スタンダードタイプ
- 大容量の車載用二次電池の
充放電試験に対応



(2019年2月)

フィットネスクラブに 低酸素トレーニング室を納入

- 標高2,500mの酸素濃度空間を再現
- 短時間で効果的なトレーニングが可能



2018年度 決算概要

海外連結会社の決算期統一

2018年度より海外連結会社の決算期(従来12月)を、国内連結会社の決算期(3月)に統一します。
 これにより、2018年度は海外連結会社の決算対象期間が15ヵ月間となります。

2017年度	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2018年 1~3月
		国内連結会社			
	海外連結会社				
2018年度	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2019年 1~3月
		国内連結会社			
		上期		下期	
		海外連結会社			
	上期		下期		
2019年度	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2020年 1~3月
		国内連結会社			
		海外連結会社			

2018年度実績

(百万円)

	2017年度 実績	2018年度 修正計画		2018年度 実績			
		修正計画	参考:海外連結 会社の決算対象 期間12ヵ月	実績	参考:海外連結会社の決算対象期間12ヵ月		
					実績	前期比	修正計画比
受注高	44,775	50,000	47,500	50,698	48,008	7.2%	1.1%
売上高	44,069	49,000	46,500	50,580	47,060	6.8%	1.2%
営業利益	4,602	5,100	5,000	5,827	5,470	18.8%	9.4%
経常利益	4,746	5,200	5,100	5,851	5,493	15.7%	7.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,308	3,800	3,750	4,289	4,030	21.8%	7.5%

決算総括

2018年度は修正計画を上回り、増収増益
参考値※¹でも修正計画を上回る

■受注高	装置事業(特に環境試験器)が大きく増加、その他事業も増加
■売上高	装置事業(環境試験器)が大きく増加、サービス事業・その他事業も増加 環境試験器は特に中国子会社が増加
■営業利益	増収と原価率の改善により増加
■経常利益 当期純利益※ ²	営業利益の拡大により増加

※¹ 海外連結会社の決算対象期間を例年どおり12ヵ月とした場合の参考値

※² 親会社株主に帰属する当期純利益

■ 1株当たり配当金は、中間配当金は期初計画のとおり22円、
期末配当金は期初計画から6円増額し46円、年間では68円を予定(2019年1月修正)

2018年度の振り返り

外部環境

概ね当社の想定どおり

- ・為替(米ドル/円)は108円~113円で推移
- ・環境規制の強化に伴うEV化の開発活況
- ・自動運転技術の開発活況
- ・IoT、AIなど先端技術開発活況
- ・米中貿易摩擦による先行き不透明感の高まり

内部状況

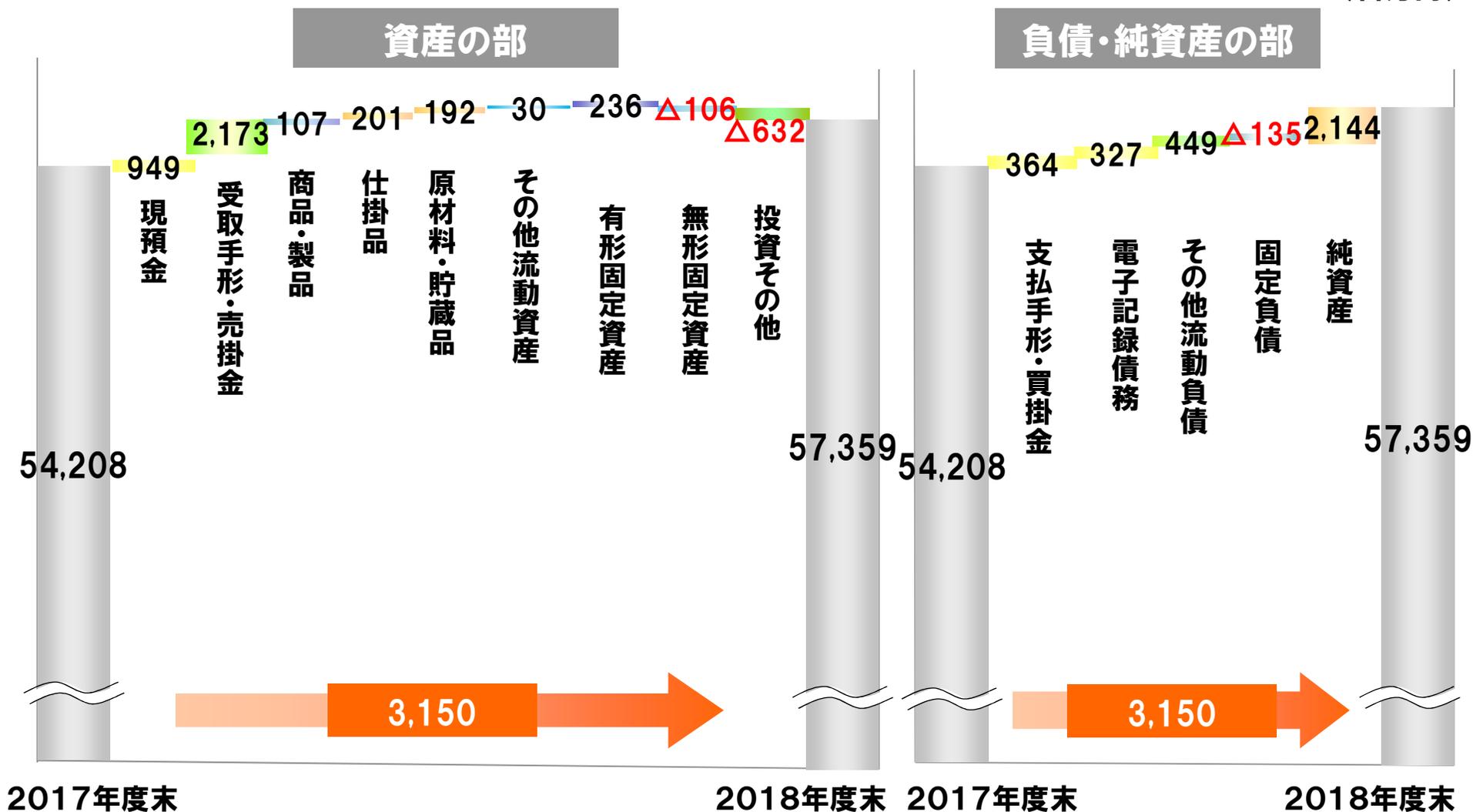
各施策を計画どおりに実施

- ・国内増産体制の構築
- ・カスタム製品の収益改善
- ・中国事業が想定以上に好調に推移
- ・欧州向け製品を拡充
 - ①IEC規格やドイツ自動車業界規格に対応
 - ②欧州Fガス規制対応製品の拡充
- ・ベトナム(ハノイ)に技術サービス拠点を開設

2019年1月に通期業績および配当予想を上方修正

資産・負債の状況

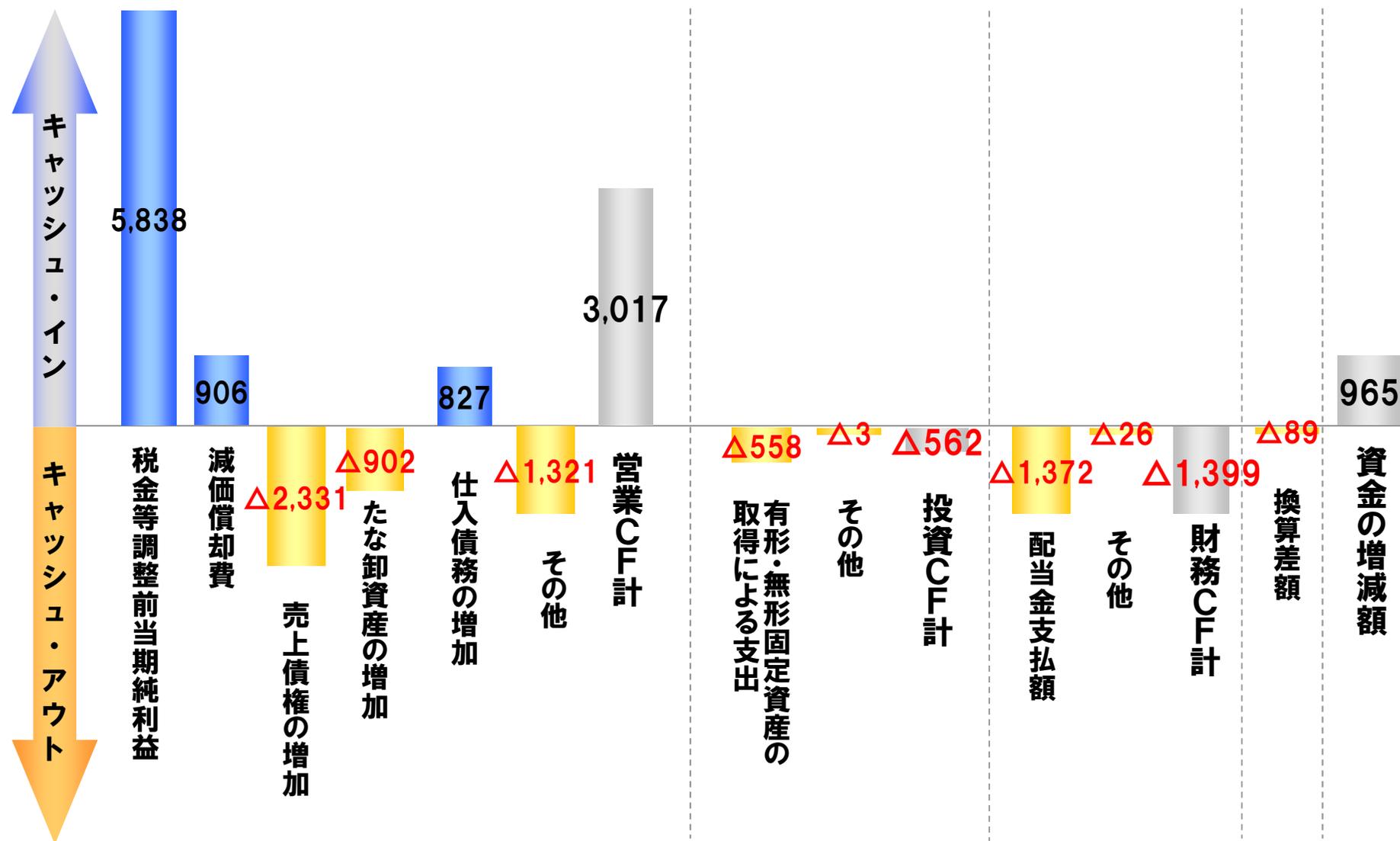
(百万円)



※2018年度第1四半期より、2018年2月16日公表の税効果会計基準の改正(企業会計基準第28号)を適用しており、2017年度末の連結貸借対照表も本改正適用後の数値に修正しています。

キャッシュフローの状況

(百万円)



2018年度 セグメント別分析

装置事業セグメント

環境試験器

- 国内ではカスタム製品が好調、海外ではすべてのエリアで堅調で特に中国が好調
※(参考)前期比で受注高・売上高ともに増加

エネルギーデバイス装置

- 二次電池評価装置、燃料電池評価装置の受注が好調に推移
※(参考)前期比で受注高は増加、売上高は減少

半導体関連装置

- 半導体市場の減速により受注は低調
※(参考)前期比で受注高・売上高ともに減少

※(参考)は海外連結会社の決算対象期間を例年どおり12ヵ月とした場合の参考値で比較

装置事業セグメント

(百万円)

	2017年度 実績	2018年度 実績		
		実績	参考:海外連結会社の 決算対象期間12ヵ月	
			実績	前期比
受注高	37,076	42,587	39,979	7.8%
売上高	36,602	42,638	39,236	7.2%
営業利益 [利益率(%)]	4,092 [11.2%]	5,193 [12.2%]	4,908 [12.5%]	19.9%

サービス事業セグメント

(百万円)

	2017年度 実績	2018年度 実績		
		実績	参考:海外連結会社の 決算対象期間12ヵ月	
			実績	前期比
受注高	6,488	6,614	6,524	0.5%
売上高	6,292	6,613	6,486	3.1%
営業利益 [利益率%]	524 [8.3%]	620 [9.4%]	548 [8.5%]	4.5%

アフターサービス・エンジニアリング

■ 受注高・売上高ともに堅調に推移し、前期比で増加

受託試験・レンタル

■ 受託試験が堅調に推移

※(参考)前期比で受注高は減少するも売上高は増加

※(参考)は海外連結会社の決算対象期間を例年どおり12ヵ月とした場合の参考値で比較

その他事業セグメント

(百万円)

	2017年度 実績	2018年度	
		実績	前期比
受注高	1,416	1,706	20.4%
売上高	1,375	1,541	12.0%
営業利益 [利益率(%)]	△15 [△1.1%]	9 [0.6%]	—

※その他事業セグメントは変則決算による影響がないため参考値を記載しておりません

環境保全・植物育成装置

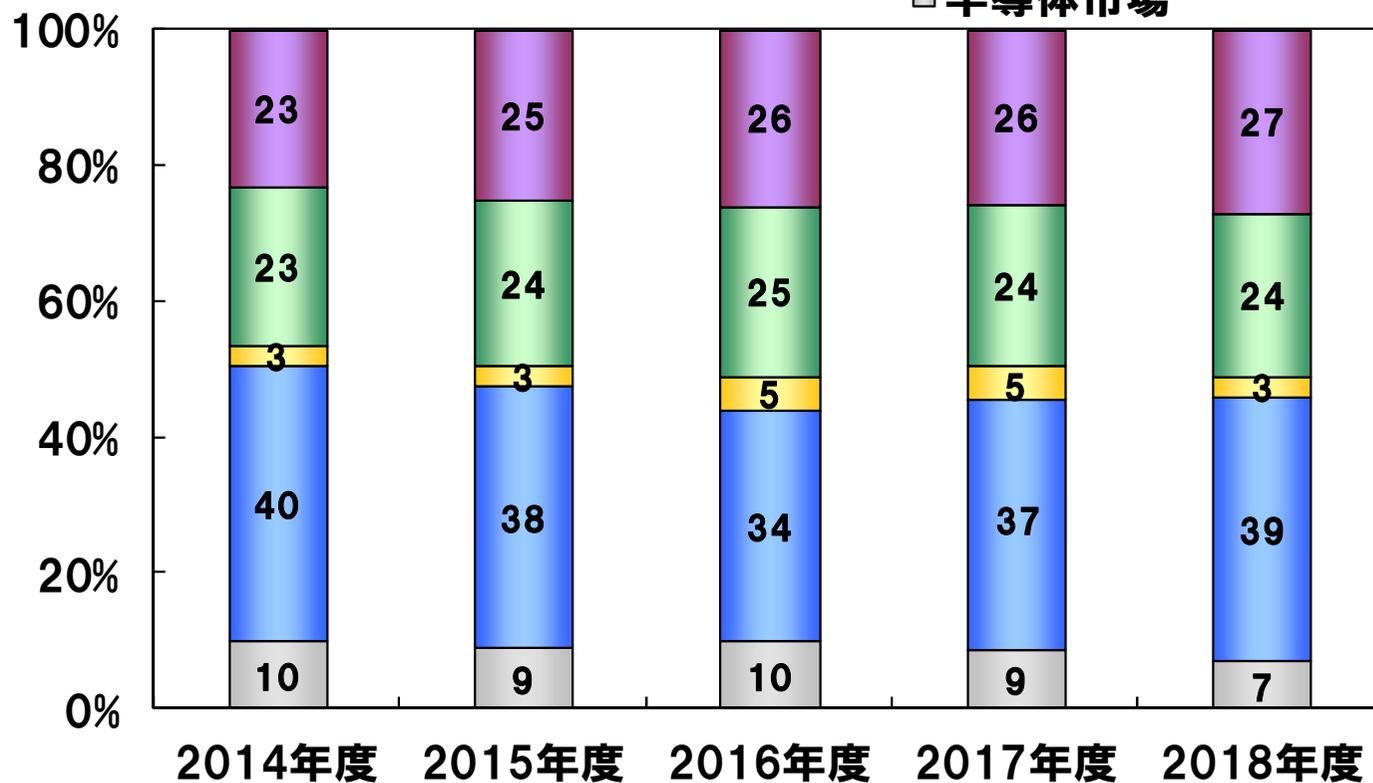
■エスペックミック株式会社において、植物工場事業が好調に推移

前期比で受注高・売上高ともに増加

市場別売上構成比

単体(装置事業)

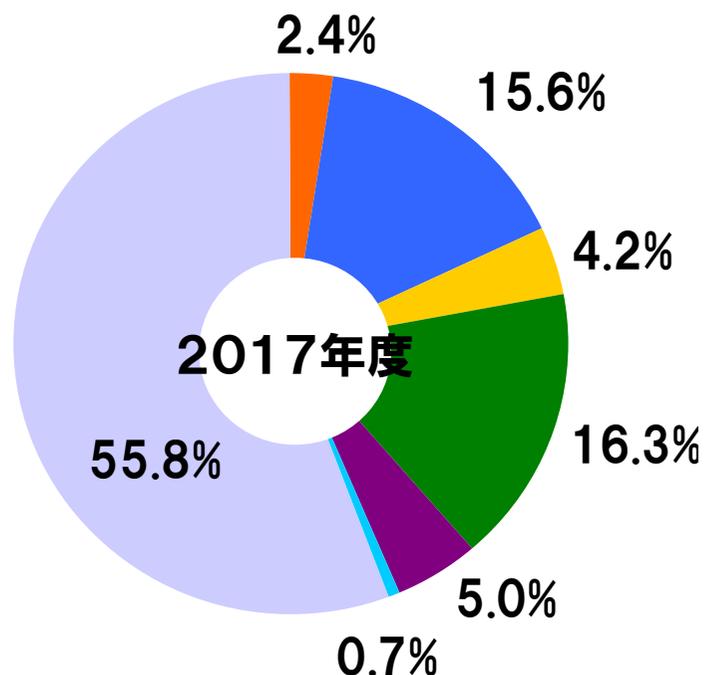
- その他市場
- 自動車市場
- フラットパネルディスプレイ市場
- 電子部品・電子機器市場
- 半導体市場



地域別売上構成比

2017年度

海外売上高比率:44.2%

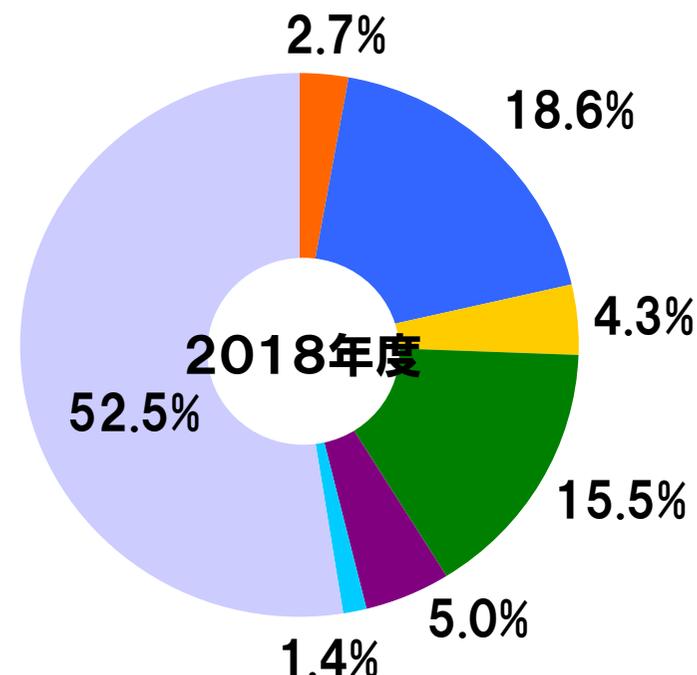


計 44,069百万円

(海外売上高:19,488百万円)

2018年度*

海外売上高比率:47.5%



計 47,060百万円

(海外売上高:22,352百万円)

※2018年度の海外連結会社の決算対象期間を例年どおり12ヵ月とした場合の参考値

2019年度 通期計画

2019年度の環境認識

装置事業	環境試験器	◎	自動車市場は、電動化・自動運転の開発が進んでおり国内外ともに投資意欲は強い
	エナジーデバイス装置	○	EVなどエコカーの投資は堅調
	半導体関連装置	○	半導体関連市場は回復に期待
	アフター・エンジ 受託試験・レンタル	○	アフター・エンジは前年並み 受託試験は自動車市場を中心に堅調
その他事業	環境保全 植物育成装置	△	環境保全・植物育成装置は、大きな変化はなし

事業セグメントの環境認識は上記のとおりだが、米中貿易摩擦など世界経済の減速懸念は強く、お客さまの投資マインドが慎重になることも考えられる

2019年度想定為替レート

■想定為替レート

	2017年度	2018年度		2019年度
	通期実績	上期実績	通期実績	通期想定
USD(円)	112.17	108.68	110.40	110

※参考：2019年度為替感応度(対ドル1円円高)

売上高 131百万円減少

営業利益 22百万円減少

2019年度 通期計画

(百万円)

	2018年度		2019年度			
	通期実績	参考: 海外連結会社の 決算対象期間 12カ月の実績	計画			
			上期	下期	通期	前期(12カ月参 考値)比
受注高	50,698	48,008	23,500	24,000	47,500	△1.1%
売上高	50,580	47,060	21,500	26,000	47,500	0.9%
売上総利益 [利益率(%)]	18,163 [35.9%]	17,084 [36.3%]	7,970 [37.1%]	9,240 [35.5%]	17,210 [36.2%]	0.7%
営業利益 [利益率(%)]	5,827 [11.5%]	5,470 [11.6%]	2,300 [10.7%]	3,200 [12.3%]	5,500 [11.6%]	0.5%
経常利益 [利益率(%)]	5,851 [11.6%]	5,493 [11.7%]	2,400 [11.2%]	3,200 [12.3%]	5,600 [11.8%]	1.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益 [利益率(%)]	4,289 [8.5%]	4,030 [8.6%]	1,700 [7.9%]	2,400 [9.2%]	4,100 [8.6%]	1.7%
設備投資額	1,197	—	700	1,900	2,600	—
減価償却費	897	—	500	500	1,000	—
研究開発費	1,290	—	700	500	1,200	—
1株当たり当期純利益 (円)	187.65	176.32	74.37	105.00	179.37	—

装置事業セグメント

(百万円)

	2018年度		2019年度			
	通期 実績	参考: 海外連結会社の決 算対象期間12カ月 の実績	計画			
			上期	下期	通期	前期(12カ月参 考値)比
受注高	42,587	39,979	19,800	19,500	39,300	△1.7%
売上高	42,638	39,236	18,000	21,300	39,300	0.2%
営業利益 [利益率(%)]	5,193 [12.2%]	4,908 [12.5%]	2,100 [11.7%]	2,750 [12.9%]	4,850 [12.3%]	△1.2%

サービス事業セグメント

(百万円)

	2018年度		2019年度			
	通期 実績	参考: 海外連結会社の 決算対象期間12 カ月の実績	計画			
			上期	下期	通期	前期(12カ月 参考値)比
受注高	6,614	6,524	3,200	3,700	6,900	5.8%
売上高	6,613	6,486	3,100	3,800	6,900	6.4%
営業利益 [利益率(%)]	620 [9.4%]	548 [8.5%]	250 [8.1%]	400 [10.5%]	650 [9.4%]	18.6%

その他事業セグメント

(百万円)

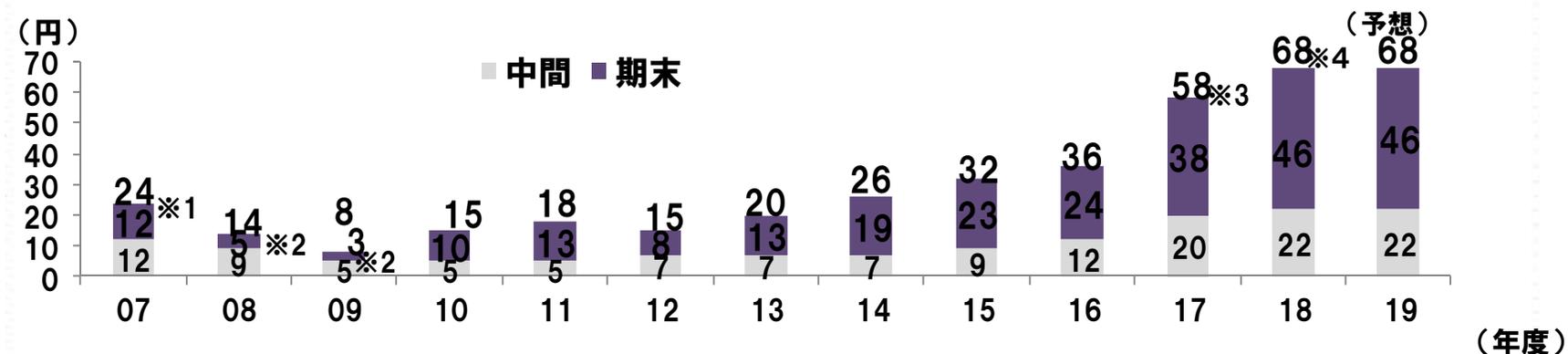
	2018年度	2019年度			
	通期 実績	計画			
		上期	下期	通期	前期比
受注高	1,706	600	900	1,500	△12.1%
売上高	1,541	500	1,000	1,500	△2.7%
営業利益 [利益率(%)]	9 [0.6%]	△50 [△10.0%]	50 [5.0%]	0 [0.0%]	—

配当政策

配当方針

株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題の一つと認識するとともに、
 永続的な企業価値の向上が株主価値向上の基本と考え、配当は継続性と配当性向を勘案して決定

一株当たり配当金と配当性向



配当性向

47% — — 21% 22% 29% 30% 29% 31% 37% 40% 36%※4 38%

※1.2007年度は創業60周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む

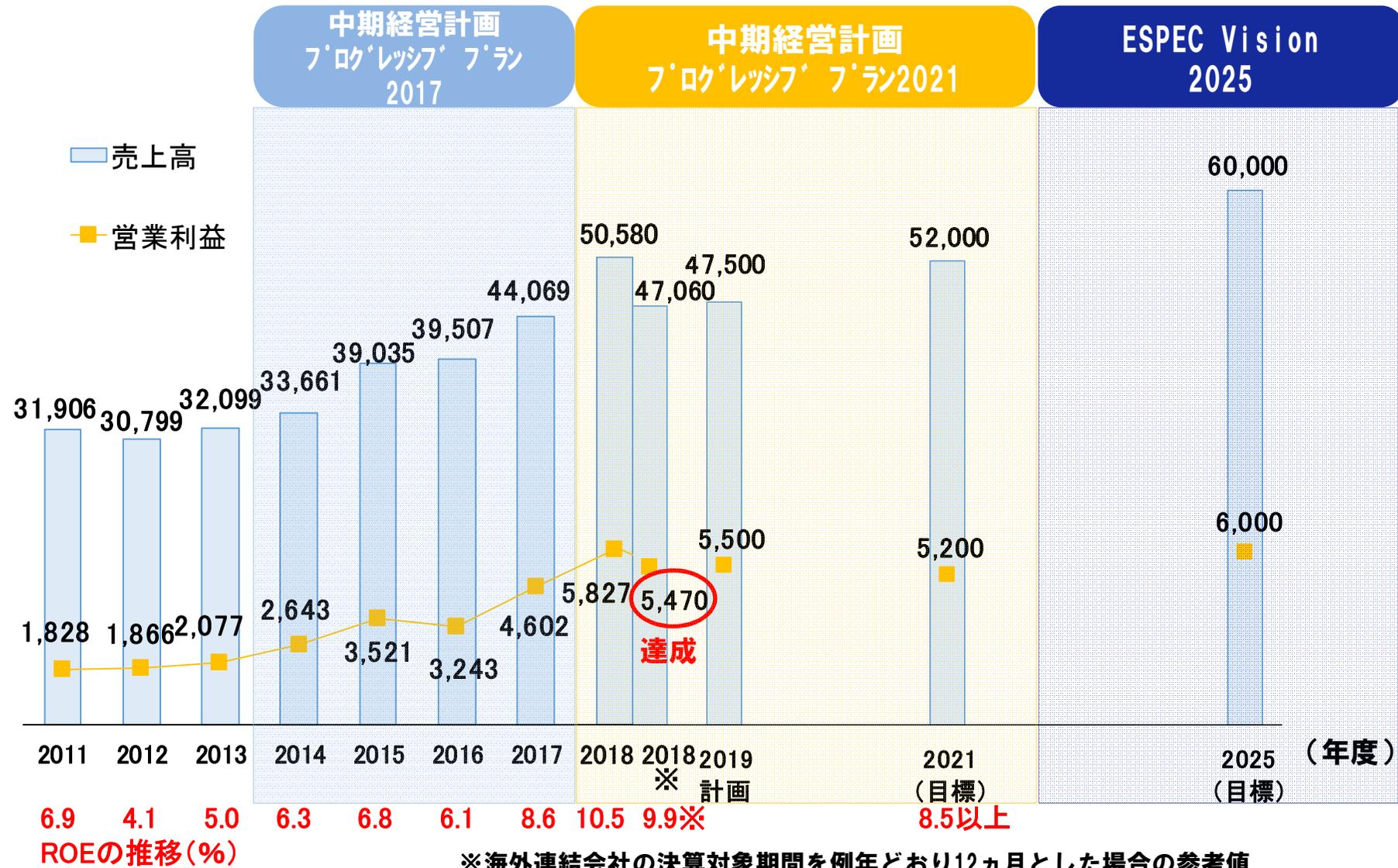
※2.2008・2009年度は当期純損失ながら配当を実施

※3.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む

※4.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算 12ヵ月とした場合の配当性向は39%(参考値)

長期ビジョンと中期経営計画

(百万円)



※海外連結会社の決算対象期間を例年どおり12ヵ月とした場合の参考値

2019年度 取り組み

装置事業セグメント 事業戦略

環境試験器

- ・カスタムプロセス改革の推進
- ・自動車市場向け製品の拡充

エナジーデバイス装置

- ・中国二次電池市場の売上拡大



新規分野

- ・新規事業開発の推進

医療／マテリアル／食品機械

生物多様性ビジネス



車載用二次電池充放電テスター



熟成庫

サービス事業セグメント 事業戦略

アフターサービス

- ・新たなサービスメニューの提案による売上拡大
スマートグラスを活用したメンテナンスサポート

遠隔作業支援

※今期開始予定



受託試験

- ・規格試験コンサルサービスによる顧客開拓
規格試験の計画から実施、分析までを総合提案
- ・国際基準規格適合サービスによる売上拡大
ISO/IEC 17025試験所認定(自動車・鉄道・航空機)



豊田試験所

グローバル戦略

重点拡大地域

欧州

- ・ラインナップ拡充などによる事業拡大
- ・テクニカルサポート体制の強化

ASEAN

- ・タイ・ベトナム子会社との連携による売上拡大

経営基盤の強化とESGの推進

企業理念「THE ESPEC MIND」のもと、持続的成長を目指す

E(環境)

- ①第7次環境中期計画の推進
- ②製品による環境負荷低減への貢献
- ③生物多様性保全活動の推進

S(社会)

- ①多様な人材育成・成長支援
- ②働き方改革の推進

G(企業統治)

- ①本社機能の整備、ガバナンスの強化
- ②ステークホルダーとの良好なコミュニケーション

投資計画

戦略投資	16億円
通常投資	10億円
設備投資 合計	26億円

研究開発費	12億円
-------	------

主な設備投資

- ・神戸R&Dセンター新棟建設
- ・受託試験サービス拡充
- ・米国子会社ENAコロラド事業所拡張



神戸R&Dセンター新棟イメージ

Quality is more than a word

ESPEC

**この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは
異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは
ございません。**

【お問い合わせ先】

エスペック株式会社

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

**コーポレートコミュニケーション部 部長 西谷
IR担当 中川・大川**

参考資料

環境試験の沿革

環境試験とは

電子部品などのさまざまな工業製品について、温度、湿度、圧力、振動などの環境因子による影響を分析・評価し、製品の品質を確保するための試験

<1950年代>

日本で民生品の環境試験がJIS規格化



<1970年代～1990年代>

「信頼性」「品質管理」が製品開発の重要なテーマとなり、電子化・電装化の加速に伴い需要が飛躍的に拡大



<現在>

エネルギー分野や自動車の電動化・自動運転技術の開発分野において需要が拡大



1961年 日本初の環境試験器を開発



【 低温恒温恒湿器 ルシファー 】

世界シェア No.1に

国内シェア
60%以上

世界シェア
30%以上



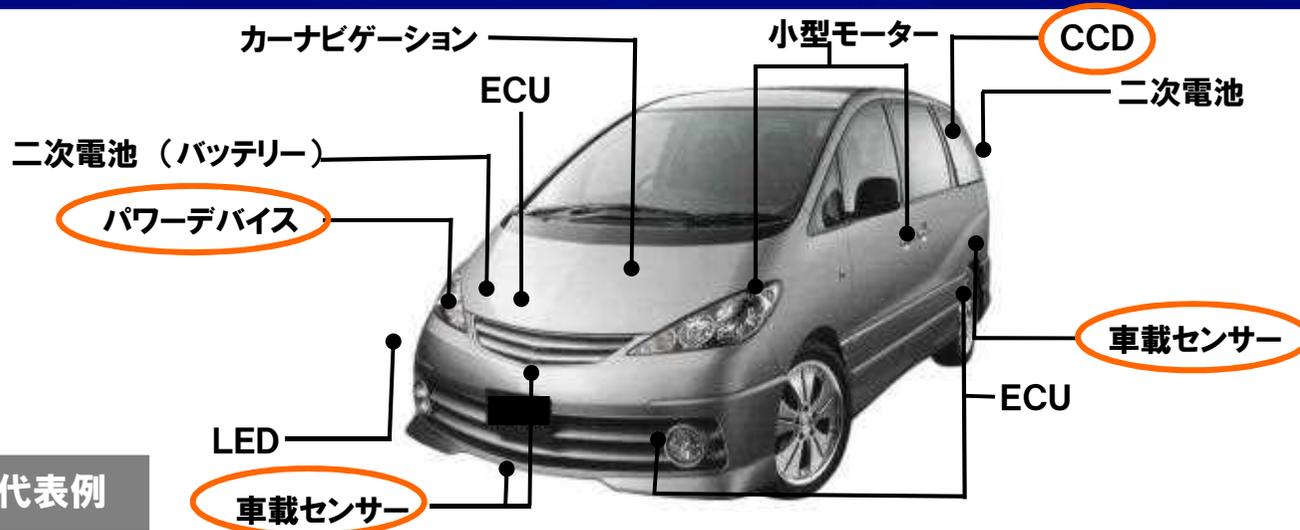
【 恒温恒湿器 プラチナスJシリーズ 】

事業の変遷

環境試験器で培った 「環境創造技術」を軸に事業を拡大



【装置事業】環境試験器の用途事例



環境試験の代表例

デバイス	プロセス/試験条件		当社製品
【パワーデバイス】 	検査	■冷熱衝撃試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +125^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置
		■高温放置: $+175^{\circ}\text{C}$ 、 $+85^{\circ}\text{C}$	(小型)オープン
		■バーンイン試験	バーンイン装置
【車載センサー】 	検査	■基板の温度サイクル試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +110^{\circ}\text{C}$	低温恒温器(プラチナス)/オープン
		■はんだ付け後の温度特性試験: $-30^{\circ}\text{C} \Rightarrow +85^{\circ}\text{C}$ をリニア変化	バーンイン装置・急速温度変化チャンバー
【CCD/CMOS】 	生産	■拡散試験: $+150^{\circ}\text{C}$	小型オープン
		■洗浄後の乾燥: $+85^{\circ}\text{C}$	クリーンオープン
	検査	■スクリーニング: $+85^{\circ}\text{C}$	恒温器(プラチナス)/バーンイン装置
		■温湿度試験: $+85^{\circ}\text{C} / +85\%rh$ 、 $+60^{\circ}\text{C} / 90\%rh$	恒温恒湿器(プラチナス)
		■加速試験: $+120^{\circ}\text{C} / 100\%rh$	HASTチャンバー
	■冷熱衝撃試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +125^{\circ}\text{C}$ 、 $-20^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +85^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置	

【装置事業】主な新製品

発売日	製品名	特長
2018年12月	熟成庫 ドライエイジング仕様	<ul style="list-style-type: none"> ・霜取りによる温度上昇がなく、5℃未満を維持しながら高湿環境の長期連続運転が可能 ・庫内殺菌モード搭載
2018年11月	車載用二次電池充放電テスター スタンダードタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・大容量の車載用二次電池の充放電試験に対応
2018年10月	ハイパワー恒温(恒湿)器ARシリーズ 急速温度変化タイプ「5℃/分」	<ul style="list-style-type: none"> ・IEC規格やドイツ自動車業界規格に適合 ・欧州Fガス規制に対応、低GWP冷媒(R-449A)搭載
2018年3月	ハイパワー恒温(恒湿)器ARシリーズ 急速温度変化タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・欧州Fガス規制に対応、低GWP冷媒(R-449A)搭載
2018年2月	ハイパワー恒温(恒湿)器ARシリーズ スタンダードタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに220L・390Lの機種(湿度制御あり/なし)を4機種追加し、計12機種ラインナップ
2017年12月	中型恒温(恒湿)器 SMシリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・1800L容量で、5℃/分の温度変化を実現 ・ネットワーク機能を標準搭載
2017年11月	高度加速寿命試験装置 (HASTチャンバー) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新コントローラー搭載で操作性と視認性向上 ・ネットワークを活用した新しい機能を追加
2017年7月	冷熱衝撃装置TSAシリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・国内初 欧州Fガス規制に対応
2016年11月	ハイパワー恒温(恒湿)器ARシリーズ 急速温度変化タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・IEC規格や自動車関連規格に対応 ・最速18℃/mの急速温度変化率を実現

【装置事業】環境試験器の納入事例

(2018年7月納入)

■恒温(恒湿)室 建材用試験室の納入

<用途>

マンションの屋内(温湿度)と屋外(雨、雪、日射などの気象)の環境を再現し、サッシやバルコニーなどの建材の性能評価や耐久性試験を行う



恒温(恒湿)室 建材用試験室



恒温(恒湿)室は可動式になっており、試験用建材の入れ替えが容易にできます



照射装置と散水(降雨)装置を装備し、屋外の気象環境を再現します

【装置事業】環境試験器の納入事例

(2016年3月納入)

■産総研 福島再生可能エネルギー研究所 スマートシステム研究棟(福島県郡山市)

納入製品：
大型恒温恒湿室

用途：
太陽光発電向けの
大型パワーコンディショナーの性能・安全性評価
100kwもの発熱負荷や重さ(21トン)にも対応



大型恒温恒湿室

■独立行政法人 製品評価技術基盤機構 蓄電池評価センター(大阪市南港)

納入製品：
①充放電試験用の恒温恒湿室
②外部短絡試験装置(エナジーデバイス装置)

用途：
①充電・放電を繰り返すことで蓄電池の性能を評価
②蓄電池がショートした場合に、発火や破裂しない
ことを確認し、安全性を評価



充放電試験用の恒温恒湿室

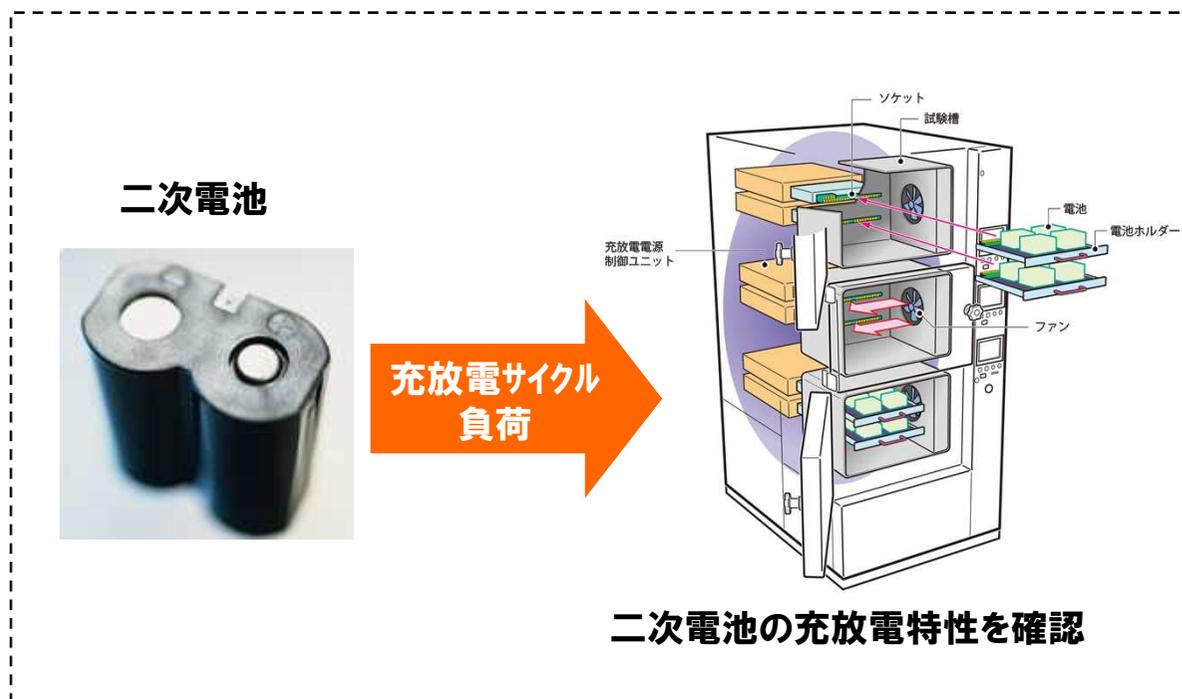
【装置事業】エネルギーデバイス装置の用途事例

充放電サイクル評価装置

ハイブリッド自動車や電気自動車など次世代自動車に用いられるリチウムイオン二次電池の信頼性や安全性を確保するための装置



充放電サイクル評価装置
アドバンスバッテリーテスター



二次電池の性能や寿命を評価

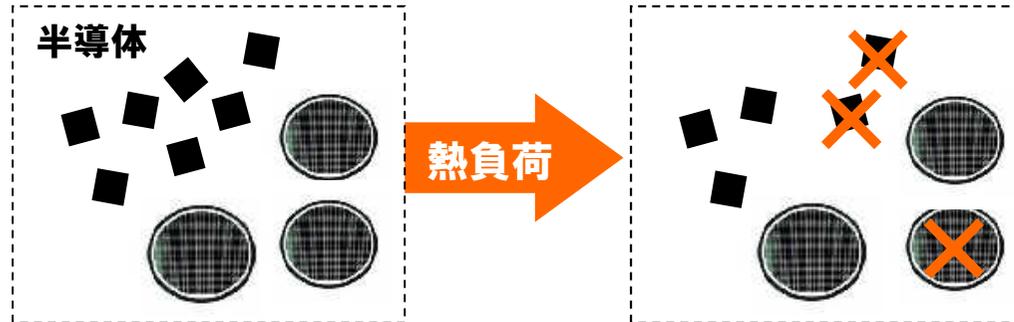
【装置事業】半導体関連装置の用途事例

スクリーニング

半導体デバイス製造の最終検査工程において、不良品を除去し初期品質を確保



バーンインチャンバー



潜在的な初期故障を除去

信頼性評価

新しい技術開発において、信頼性確保に向けた基本的な故障形態を評価



導体抵抗評価システム



熱サイクル
負荷

はんだ接合部分の不良例



電子部品のはんだ接合部分の信頼性を電氣的に評価

【サービス事業】

アフターサービス・エンジニアリング

製品の予防保全、メンテナンスサービス、製品の改善・改良、設置・移設など

- 国内No. 1のネットワークによるスピーディな対応
- 業界初のサービス「エスペックオンラインサポート」

受託試験・レンタル

受託試験・分析・評価、コンサルティング、製品レンタル、中古製品の販売、試験器校正など

- 国内4ヵ所、タイ1ヵ所、中国2ヵ所に受託試験所を展開

(国内:宇都宮・豊田・刈谷・神戸、タイ、中国:上海・蘇州)

- ・ 計量法校正事業者認定制度 (JCSS) に基づく校正機関

- 世界初「バッテリー安全認証センター」開設(2015年9月)

- ・ 車載用二次電池の安全性に関する国連規則に適合した

試験・認証申請のワンストップサービスを提供

- ・ 第三者認証機関テュフズードジャパン (株) と業務提携(2014年10月)(宇都宮テクノコンプレックス内)

- 国内初 ISO/IEC 17025^{※1}試験所認定を自動車・鉄道・航空機の3分野で同時取得

中日本試験所では、ドイツ自動車業界規格「LV124」の試験のワンストップサービスを提供



【バッテリー安全認証センター】

※ISO/IEC17025: 試験所・校正機関が正確な測定/校正結果を生み出す能力があるかどうかを権威ある第三者認定機関が認定する国際標準規格

【サービス事業】

業界初 ネットワークを使った新サービスを提供 「エスペックオンラインシリーズ」

※2013年11月よりサービス開始

■エスペックオンラインサポート

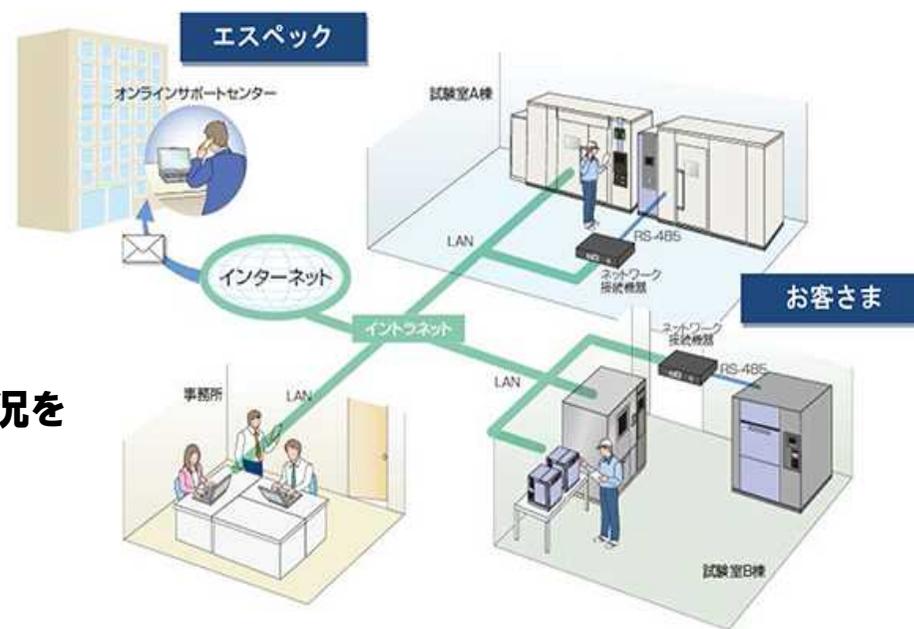
当社の製品を安心してご使用いただくための
トラブル通報・復旧サポートサービス

■エスペックオンラインコア

ネットワーク接続した複数の環境試験器の稼働状況を
一目でモニタできる集中管理システム

■エスペックオンラインコンバーター

ネットワーク非対応の環境試験器をLAN接続するためのネットワークアダプター
ネットワーク接続した環境試験器の遠隔モニタ、遠隔操作ができる



【サービス事業】

**世界初「バッテリー安全認証センター」にて
国連規則に適合した受託試験・認証サービスを提供**

**国連規則ECE R100-2. Part IIで定められた9項目の安全性試験の実施
および認証機関への認証申請をサポートするワンストップサービスを提供
(2015年9月 宇都宮テクノコンプレックスに開設)**



**バッテリー安全認証センター
(宇都宮テクノコンプレックス内)**



圧壊試験機(第1安全試験室) 第2安全試験室

【その他事業】

環境保全

■ 森づくり

潜在自然植生データによる樹種選定、幼苗植栽手法を用いた郷土の森づくり

■ 水辺づくり

水生植物を活用した、自然環境復元、植生護岸の形成、水質浄化

■ 都市緑化

ヒートアイランド現象の緩和に効果的な苔による屋上・壁面緑化システム



植物育成装置

植物の育成に必要な光・温湿度・養分などを最適にコントロールして植物を育成する植物工場や研究用育苗装置



植物工場



ファイトロン

【その他事業】

海洋深層水を使用した高付加価値野菜を生産

2016年3月、羽田空港近郊に設置した植物工場※において、
海洋深層水を使用したミネラル豊富な高付加価値野菜を生産・販売

※株式会社ディーエイチシー、京都大学との共同研究



植物工場と生産野菜「ミネラリーフ」

【その他事業】納入事例

(2016年3月納入)

■鳥取大学乾燥地研究センター

納入製品:

乾燥地植物気候変動応答実験設備 2基
(高温、低湿、強光、強風など乾燥地の気候を再現)

用途:

乾燥地での植物の栽培実験や効率的な水利用技術の開発実験など
乾燥地問題の解決に向けた研究



乾燥地植物気候変動応答実験設備



実験の様子

環境への取り組み

日本経済新聞社「環境経営度調査」71位（2017年度）

- **公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」**
地球環境保全に関する研究・技術開発に対して毎年資金援助を実施
1997年、創業50周年を機に設置
- **森林保全活動「毛原の森づくり活動」**
2018年3月「国連生物多様性の10年日本委員会」連携事業に認定
2007年より開始、当社の社員ボランティアなど延べ1,000人以上が参加
- **エスペックみどりの学校**
環境教育等促進法に基づく人材認定等事業
地球環境のことを考えるリーダーの養成を目的に
全国各地でセミナーやイベントを開催



・サステナビリティレポート2018が
第22回環境コミュニケーション大賞※「優良賞」を受賞
※環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム主催



生物多様性の取り組み

(2018年3月)

「毛原の森づくり活動『宝の山づくり』—京都モデルフォレスト運動」
「国連生物多様性の10年日本委員会」連携事業に認定

- ・「毛原の森づくり活動」は、当社とエスペックミックが福知山市大江町毛原自治会と取り組んでいる森林保全活動
- ・「毛原の森に生息する多様な生物」=「お宝」と位置づけて新たな森の魅力を発掘する「宝の山づくり計画」を策定し、草刈りや間伐などの保全活動や、いきもの見所マップの制作、ウォーキングコースの整備などを実施



「毛原の森づくり活動」参加者



この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)」が推奨する事業として認定を受けています

社員がさらに活躍できる会社へ

女性活躍推進の取り組み



厚生労働省より、
子育てサポート企業認定マーク「くるみん」、
女性活躍推進法に基づく認定マーク
「えるぼし」の最高位などを取得



女性リーダー育成研修会

社員教育制度の充実

- 企業理念の共有を目的とした研修会の実施
- 国際的に活躍できる人材育成を目的としたグローバルトレーニープログラムの実施
- 経営幹部育成および自己啓発を支援する教育プログラムの拡充



グローバルトレーニープログラム
現地研修(アメリカ)